

被爆直後の市民の写真などが並ぶ広島原爆展
＝18日午後、松山市堀之内



被爆者の苦しみ知って 県美術館で原爆展開幕

広島への原爆投下直後の写真など貴重な資料を展示した「平和への発信―広島原爆展」が18日、松山市堀之内の県美術館南館で始まった。約110点の写真やパネルなどが原爆の悲惨さを伝えている。23日まで。

広島市在住で広島平和記念資料館でピースボランテニアを務める小学校教諭大西知子さん(66)＝松前町出身＝が企画し、2011年以来2回目。大西さんは「原爆の史実や、今も続く被爆者の苦しみを知ってほしい」と呼び掛けている。

会場では、元中国新聞カメラマン松重美人さん(故人)が直後の被爆した市民の姿を撮った写真のほか、

熱線によって着物の柄が皮膚に焼き付いた女性や、放射線の影響で髪の毛が抜け落ちた少女など同資料館作成のパネルも展示している。来場者は足を止めて熱心に見入り、千羽鶴のコーナーでは平和への願いを込めて鶴を折っていた。

松山市立花5丁目の無職久保広重さん(67)は「人が焼け焦げた姿や(やけどの傷が不規則に盛り上がる)ケロイドなどが痛ましい。非人道的な原爆の怖さを感じ、二度とあってはいけな」と思ったと声を強めた。

(高田未来)

